

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	南アルプス世界自然遺産登録推進事業	会計	一般会計	事業No.	351	施策順No.	62-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-13-2		
政策	6 地域の自然・歴史・文化を活かし続けるまちづくり			課等名	環境課		
施策	62 地域資源の資産化			事業期間	開始	18	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	南アルプスに係る市町村民 南アルプスに係る地域						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
		関係市町村の人口(人)		106630	105691	105036	106630		
		関係するエリア(国立公園面積)(ha)		35750	35750	35751	35750		
意図		南アルプスの価値を知ってもらう 世界自然遺産に登録され、自然が保全される							
対象をどう変えるか	意図	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
		登録推進に関する活動へ参加する飯田市民数(人)		63	150	75	16	80	D
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		参加者が21年度には世界遺産フォーラムが飯田で開催されたため多かったが、22年度では市外での会議が多く、飯田市民の参加者は少なかった。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	南アルプス世界自然遺産登録推進事業 ①静岡県、山梨県、長野県内の3県10市町村による南アルプス世界自然遺産登録推進協議会活動(H19.2.28設立) ②長野県内の関係4市町村による南アルプス世界自然遺産登録長野県連絡協議会活動(H19.1.29設立) ③両協議会では、地球規模での顕著で普遍的な価値を有する南アルプスの保全に努め将来に継承していく ④南アルプスの価値を高め、人類共有の財産とすべく相互に連携協力し、世界自然遺産に登録すべく活動を展開していく		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 長野県、静岡県、山梨県の3県協議会活動 (1)総会、幹事会等の会議の開催 (2)関係機関の支援を要請するための要望活動 (3)推進協議会内のジオパーク推進部会により、ジオパーク拡充を推進 (4)賛助会員対象の大会開催 2 長野県連絡協議会活動 (1)総会、幹事会等の会議の開催 (2)学術調査の継続 (3)その他3県の協議会と協力しながら活動 3 飯田市の活動:それぞれの構成員としての役割を果たすとともに、ホームページ等による意識啓発を実施	1 3県の会議開催数(総会・幹事会) 2 長野県の会議開催数(総会・幹事会) 3 啓発事業数(総会・通信・FM)	1 3回 2 4回 3 3回
23年度実施計画	1 長野県、静岡県、山梨県の3県協議会活動 (1)総会、幹事会等の会議の開催 (2)関係機関の支援を要請するための要望活動 (3)推進協議会内のジオパーク推進部会により、ジオパーク拡充を推進 (4)賛助会員対象の大会開催 2 長野県連絡協議会活動 (1)総会、幹事会等の会議の開催 (2)学術調査の継続 (3)その他3県の協議会と協力しながら活動 3 飯田市の活動:それぞれの構成員としての役割を果たすとともに、ホームページ等による意識啓発を実施	1 3県の会議開催数 2 長野県の会議開催数 3 啓発事業数	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		729	631	714		
計(A)		729	631	714		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			631			

4 事業に対する市民や議会の意見

H19年議会第3回定例会で、自然遺産への登録について次の意見があった。 ・市民との協働が必要 ・小さい頃からの自然を守る取組が必要と考えるので、学校教育においても、取り組みが必要 ・一部のみに限らず、多くの人へ伝えることが重要
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	①見出された地域資源の価値が顕在化され高まる ②市民に認知される	施策の成果指標又はムトス指標	活用できる状態の整った地域資産の数(累計) 地域資産を知っている市民の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのような貢献しましたか	4年間の振り返り	世界遺産フォーラムなどを飯田で開催し、ジオパーク、ジオサイトとしての価値について調査・啓発を行うことで、地域資源が活用されると共に、徐々にではあるが、南アルプスが世界遺産登録の対象として認知されつつある。		
	後期に向けた課題	南アルプスは、市民にとってまだ身近な存在となっていないことから、地道な啓発活動が必要。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	協議会事業への賛助会員の参加を呼びかけたり、リレー展覧会などを開催することで、市民の皆さんに、南アルプスの魅力を知っていただくための機会の提供を行った。		
	後期に向けた課題	更なる啓発活動が必要。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	構成市町村共同で行っており、最低限の支出である。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	南アルプス世界遺産登録推進協議会構成メンバーが市町村となっており、市がかかわる必要があった。受益者負担の程度や関与の程度は適切であった。		
	後期に向けた課題	世界遺産登録に資する活動としてのジオパークガイドを養成し、市(飯田市美術博物館)などが行っているガイド役を市民にも担ってもらう必要がある。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	①賛助会員などが積極的に、協議会事業等に参加した。 ②広報や、賛助会員への郵送による通知により行事等の周知。		
	後期に向けた課題	協議会行事等への参加者の増加と、より多くの市民に周知されること。		
全体を通じて	4年間の振り返り	少しずつではあるが、南アルプスの世界遺産登録を推進していることが、周知されてきている。		
	後期に向けた課題	リニア中央新幹線と南アルプスの世界遺産登録は、共に推進していく対象であることについての理解を得ること。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------